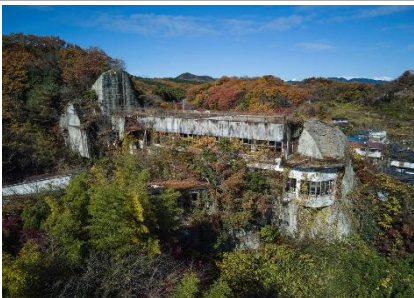


■After		大谷グランド・センター				
建築名称		Oya Grand Center			建築URL	
下段: 英語名						
建築用途	大分類	商業施設、展示施設	小分類		飲食店、物販店、ギャラリー	
設計者	針谷將史建築設計事務所				設計事務所	
所在地	栃木県宇都宮市大谷町1396-29			Google Maps		
改修年	2025年	元建築の竣工年	1967年			
建築規模	構造規模: RC造地上2階建て、				After	
構造・階数・面積	延べ床面積: 799.86㎡					
掲載書誌	新建築 2026年3月号、GA JAPAN 199					
賞・選定					撮影者提供者	桐原武志 撮影: 2026年
主な関連法規、条例、助成金 等					概要 after	閉業し30年間廃墟状態であった温浴、宴会施設を躯体と大谷石の壁を残し、スケルトン状態にし、大谷石の崖と建築の関係性を見直し飲食店とアートスペースにリノベーション。
関連組織 等	トータルマネジメント: 井上総合印刷 総合プロデュース: bonvoyage					
資料等				資料の URL		
■Before		山本園大谷グランドセンター		概要 before	宴会場付きの温浴施設として建設され、閉業後30年以上にわたり廃墟となっていた	
建築名称						
建築用途	大分類	アミューズメント施設	小分類	温浴宴会施設		
■写真		After		After	石の崖にへばり付いていた部分を減築し、石と建築が互いに自立する関係性が生まれた	
Before		レストラン内観。梁下まで開かれた開口から大谷石がシンボルのように見える。				
						
撮影者	撮影: 中村晃	撮影者	撮影: 浜田昌樹	撮影者	撮影: 浜田昌樹	
提供者	提供: 大谷グランド・センター	提供者	提供: 針谷將史建築設計事務所	提供者	提供: 針谷將史建築設計事務所	
■関連タグ／リノベーションキーワード		用途変更、痕跡、スケルトンインフィル、減築、アート				
■リノベーション内容		＜針谷將史建築設計事務所ウェブサイトより引用＞ 既存建物は30年以上放置されていた状態であったため、解体と同時に漏水などで傷んでいる躯体の安全性を調査しながら進めた。また、大規模な改修にあたることから、用途変更の申請を行い確認済証の取得手続きを行った。手続き上、建設当時の床面積を超える改修は許可されないため、面積を上回らないことを前提にデザインを検討した結果、新規のエLEMENTを増築するのではなく、解体と減築を主としたデザインとした。結果的にはこの制約が、人と空間と石の新たな関係性を構築するための創造的なルールとして機能した。解体後に発覚した躯体の補修費用が大きく、改修にかかる予算が限られていたため、ガラスのサイズや割付を小さくする、サッシの仕上げは錆止め塗装までとする、鉄骨は現場溶接ではなくボルト接合とする、大谷石積みの内装壁は保存する。解体して出た大谷石は再利用する、などの工夫を施し、それが建築のデザインの個性となるように設計をおこなった。 建築空間のデザインは、石にへばり付いていた仕上げや床スラブ、垂壁の減築を行い、石と建築が互いに尊重しあい自立するよう、既存の街が本来持っており関係性に近付けたいと考えた。石の崖との間に新たに生まれた間隙によって、石とコンクリートの構造体は局所的な接点を持ちながら自立し、石は下地や建材としての役割から解放され、本来の物質としての存在する時間を取り戻す。				
■備考						
■作成者		作成協力		針谷將史建築設計事務所	整理番号	No 255
氏名／所属		桐原武志 Free/JIA再生部会		氏名／所属		